資治通鑑 第99巻

令和3年12月8日

■東晋、▲前燕、続国訳漢文大成．経子史部第6巻140p

孝宗穆皇帝中之上永和七年（辛亥，３５１年）

■春，正月，丁酉（１日），日食之れ有り。

【苻健は大秦天王に即位】

前秦［苻健は大秦天王に即位］苻健の左長史の賈玄碩等は劉備の漢中王を稱するの故事（68巻漢獻帝建安24年に見える）に依りて，健を表して（晉に上言し、晉を正統とする考え方）都督關中諸軍事、大將軍、大單于、秦王と為すを請う。健は怒りて曰く、

「吾は豈に秦王と為るに堪えん邪！且つ晉の使いは未だ返らず，我之官爵は，汝が曹の知る所に非ざる也。」

既に而して密かに梁安をして玄碩等に諷して尊號を上（たてまつ）ら使め，健は辭して再三讓り，然る後に之を許す。丙辰（２０日），健（字は建業、洪の第三子）は天王、大單于に即位し，國號を大秦とし，大赦し，改元して皇始とす。父の洪を追尊して武惠皇帝と為し，廟號を太祖とす。妻の強氏を立てて天王后と為す，子の萇を太子と為し，靚を平原公と為し，生を淮南公と為し，覿を長樂公と為し，方を高陽公と為し，碩を北平公と為し，騰を淮陽公と為し，(6-141p) 柳を晉公と為し，桐を汝南公と為し，廋を魏公と為し，武を燕公と為し，幼を趙公と為す。苻雄を以て都督中外諸軍事、丞相、領車騎大將軍、雍州牧、東海公と為す。苻菁をして衛大將軍、平昌公と為し，二宮（健と太子の居所）に宿衛せしむ。雷弱兒を太尉と為し，毛貴を司空と為し，略陽の姜伯周を尚書令と為し，梁楞を左僕射と為し，王墮を右僕射と為し，魚遵を太子の太師と為し，強平を太傅と為し，段純を太保と為し，呂婆樓を散騎常侍と為す。伯周は，健之舅、平は，王后之弟、婆樓は，本は略陽の氐酋也。

■段龕（前巻前年に廣固に拠る）は青州を以て内附せんと請う。二月，戊寅（１３日），龕を以て鎮北將軍と為し，齊公に封じる。

【冉閔襄國包囲に前燕救援の逆襲】

冉魏［冉閔包囲の石祗は姚弋仲と慕容儁の救援要請］魏主の閔は襄國（前巻前年11月包囲）を攻圍すること百餘日，趙主（後趙）の祗（石祗）は危急にして，乃ち皇帝之號を去り，趙王を稱す。太尉の張舉を遣わして燕に師を乞い，傳國の璽を送ることを許し，中軍將軍の張春をして姚弋仲に師を乞わしむ。弋仲は其の子の襄を遣わして騎二萬八千を帥いて趙を救わしめ，之を誡めて曰く、

「冉閔は仁を棄て義に背き，石氏を屠滅す。我は人（石虎）の厚遇を受け，當に為に復仇すべし，（然るに我は）老病にして自ら行く能わず。汝の才は閔に十倍し，若し梟擒して以て來たらずんば，必ず復た我を見ざる也（続は不必、綱目は不必、晉書載記は不須、綱目を採用）！」

弋仲は亦た遣使して燕に告げ，燕主の儁は禦難將軍の悅綰を遣わして兵三萬を將いて往きて之に會せしむ。

冉魏▲［冉閔は慕容儁説得工作］冉閔は儁が趙を救わんと欲するを聞き，大司馬の從事中郎の廣寧の常煒を遣わして燕に使いせしむ。儁は封裕をして之を詰（続は誡）め使めて曰く、

「冉閔は，石氏の養息なり，恩に負けて逆を作し，何の敢て輒ち大號を稱するや？」

煒は曰く、
「**湯**は**桀**を放ち，**武王**は**紂**を伐ち，以て商、周之業を興こす。**曹孟德**（曹操、68 巻漢靈帝中平元年のあり）は宦官に養なわれ，出ずる所を知る莫し，卒(つい)に**魏氏**之基を立てる。苟しくも天命に非ざれば，安んぞ能く成功せん！此を推して而して言えば，何の必ずしも問いを致さんや！」
裕は曰く、
「人言うに**冉閔**が初めて立つや，金を鑄て己の像を為り，以て成敗を卜す，而るに像は成らずと，信なる乎？」
煒は曰く、
「聞かず。」
裕は曰く、
「南から來たる者は皆な云うに是くの如し，何の故か之を隱すや？」
煒は曰く、
「奸偽之人は天命を矯めて以て人を惑わさんと欲する者は，乃ち符瑞を假りて、著龜（ノコギリソウと亀甲を指し、昔は占いに用いた）に托し以て自ら重しとす，**魏主**は符璽を握り，中州に據りて，命を受けるは何の疑がうや。而して更に真を反して偽と為すは，決を金像に取る乎！」
裕は曰く、
「傳國の璽は果たして安くに在るや？」
煒は曰く、
「鄴に在り」。
裕は曰く、
「**張舉**は襄國に在りと言う。」
煒は曰く、
「胡を殺す之日（冉閔の五胡大虐殺），鄴に在る者は殆んど孑遺(げつい)（残余）無し。時に逆漏する者有るは，皆な溝瀆の中に潛伏する耳，彼は安んぞ璽之在る所を知らん乎！彼の救いを求める者は，妄誕之辭を為すとも，可からざる所無し，況んや一璽を乎！」
▲**儁**は猶ほ**張舉**之言を以て信と為し，乃ち柴を其の旁に積みて，(6-142p) **裕**をして其の私を以て之を誘わ使めて，曰く、
「君は更に熟思すべし，徒らに灰滅を取るを為す無かれ！」
煒は正色して曰く、
「**石氏**は貪暴にして（96 巻成帝咸康四年六年にあり），親ら大兵を帥いて燕の國都を攻める。克たず而して返すと雖も，然るに志は必ず取るに在り。故に資糧を運び（96 巻咸康四年六年にあり）、器械を東北に聚める者は，以て相い資するに非ず，乃ち相い滅ぼさんと欲する也。**魏主**（冉閔）が**石氏**を誅剪するは，燕の為ならずと雖も，臣子之心は，仇讎之滅びたるを聞けば，義は當に如何するや？而るに更に彼が為に我を責めるは，亦た異となさず乎（怪しむべし）！吾は聞く死者の骨肉は土に下り，精魂は天に升ると。君之惠みを蒙り，速かに薪を益して火を縱ち，僕をして上は**帝**（天帝）に訴えるを得使めば足らん矣！」
左右は之を殺すを請い，**儁**は曰く、
「彼は身を殺すを憚らず而して其の主に徇う，忠臣也！且つ**冉閔**に罪有りとも，使臣は何ぞ焉に預からん！」

出でて館に就か使める。夜，其の鄉人の**趙瞻**をして往きて之を勞わら使めて，且つ曰く、
「君は何ぞ實を以て言わざるや？**王**は怒り，君を遼、碣之表（遼東の海、碣石の外）に處かんと欲す，奈何や？」
煒は曰く、
「吾は結髮して以來，尚ほ布衣を欺かず，況んや**人主**を乎！意を曲げて苟しくも合わせるは，性は能わざる所。直情して言を盡くすは，東海に沉むと雖も，敢えて避けざる也！」
遂に臥して壁に向かい，復た**瞻**と言わず。**瞻**は貝（つぶさ）に以て**雋**に白し，**雋**は乃ち**煒**を龍城に囚（とら）える。
前秦［趙の并州刺史張平は秦に降る］趙の并州刺史の**張平**は遣使して秦に降り，**秦王**は**平**を以て大將軍、冀州牧と為す。
▲燕王の**雋**は薊に還る。

【冉閔の大敗と自壊】

冉魏［冉閔は姚襄らに敗れ兵は尽きる］三月，**姚襄**及び趙の汝陰王の**琨**は各々兵を引いて襄國を救う。**冉閔**は車騎將軍の**胡睦**を遣わして**襄**を長蘆（直隷省津海道滄県、現・河北省滄州市滄県）に拒ましめ，將軍の**孫威**をして**琨**を黄丘（直隷省保定道舊保定府内、清苑県、現・保定市清苑区）に拒ましめ，皆な敗れて還り，士卒は略ぼ盡きたり。(2021-0221)
冉魏［冉閔は大敗し鄴帰還］**閔**は自ら出でて之を擊たんと欲し，衛將軍の**王泰**は諫めて曰く、
「今襄國は未だ下らず，外の救いは雲集す，若し我が出でて戰えば，必ず覆（腹）背に敵を受けん，此くは危道也。壘を固めて以て其の鋭を挫き，徐（おもむろ）に其の釁を觀て而して之を擊つに若かず。且つ**陛下**は親ら臨みて陳に行き，如し萬全を失えば，則ち大事は去る矣。」
閔は將に止まらんとし，道士の**法饒**は進みて曰く、
「**陛下**は襄國を圍むこと年を經，尺寸之功無く，今賊至るに，又た避けて擊たざれば，將に何を以てか將士を使う乎！且つ太白は昴（スバル七星は旄頭胡星）に入り，當に胡王を殺さんとし，百戰して百克すべし，失う可からずざる也！」
閔は袂を攘（ふる）いて大言して曰く、
「吾は戰いて決せん矣，敢て衆を沮む者は斬らん！」
乃ち衆を悉くして出で，**襄**、**琨**と戰う。**悅綰**は適々（たまたま）燕の兵を以て至り，魏兵を去ること數里，騎卒を疏布（粗い布）し，柴を曳いて塵を揚げ（煙幕を張る），魏人は之を望みて恟懼し，**襄**、**琨**、**綰**は三面から之を擊つ，趙王の**祗**は後より之を沖（つ）き，魏兵は大いに敗れ，**閔**は十餘騎と輿に走りて鄴に還る。(6-143p) 降胡の**栗特康**等は大單于の**胤**及び左僕射の**劉琦**を執り以て趙に降り，趙王の**祗**は之を殺す。**胡睦**及び司空の**石璞**、尚書令の**徐機**、中書監の**盧諶**等並びて將士の死者は凡そ十餘萬人。**閔**は潛かに還り，人は知る者無し。鄴中は震い恐れ，**閔**は已に沒すると訛言（かげん）す。射聲校尉の**張艾**は**閔**が親ら郊（郊外で祀りす）して以て衆心を安ぜしむを請う。**閔**は之に從い，訛言は乃ち息む。**閔**は**法饒**父子を支解（身体解体刑）し，**韋謏**に大司徒を贈る。**姚襄**は攝頭（直隷省大名道棗彊県東北、現・衡水市棗彊県、姚氏の本拠地）に還り，**姚弋仲**は其の**閔**を擒とせざるを怒り，之を杖うつに一百。
冉魏［冉閔は私服を肥やし中原大混乱で餓死者続出］初め，**閔**之趙の相と為る也，悉く倉庫を散じて以て私恩を樹（う）え，羌、胡と相い攻めること，戰わざる月無し。趙の徙す所の青、雍、幽、荊四州の人民及び氐、羌、胡蠻の數百萬口（石氏は度々徒民を行う）は，趙の法禁の行わざるを以て，各々本土に還る。道路は交錯し，互いに相い殺掠し，其の能く達する者は什に二、三有り。中原は大亂す。因りて饑疫を以て，人は

相い食み，復耕する者無し。

後趙［趙王祗の將劉顯の裏切り］趙王の**祗**は其の將の**劉顯**をして衆七萬を帥いて鄴を攻め使め，明光宮（石氏の建てる宮）に軍す，鄴を去ること二十三里。魏主の**閔**は恐れ，**王泰**を召き，之と謀らんと欲す。**泰**は前言之從わざるを恚（いか）り，辭するに瘡の甚だしきを以てす。**閔**は親ら臨みて之を問い，**泰**は固く疾い篤しと稱す。**閔**は怒り，宮に還り，左右に謂って曰く、

「巴奴（王泰は元々巴蠻の一員），乃公（だいこう）（冉閔自ら）は豈に汝を假りて命を為さん邪！要は將に先ず群胡を滅ぼして，卻（かえ）りて**王泰**を斬らんとす。」

乃ち衆を悉くして出でて戰い，大いに**顯**の軍を破り，奔るを追いて陽平（山東省東臨道館陶県、現・河北省邯鄲市館陶県）に至り，斬首すること三萬餘級。**顯**は懼れ，密かに使いして降を請い，**祗**を殺して以て自ら效さんと求め，**閔**は乃ち引いて歸る。會々告げる者有り、

「**王泰**は叛して秦に入らんと欲す」

閔は之を殺し，其の三族を夷ぐ。

前秦［秦王苻健の趙苛政排除と人民慰撫］秦王の**健**は使者を分遣して民の疾苦を問い，雋異を搜羅し，重斂之税を寛くし，離宮之禁を弛め，無用之器を罷め，侈靡之服を去り，凡そ趙之苛政の民に便ぜざる者は皆な之を除く。

■前秦［杜洪は晉を呼ぶ、秦の賈玄碩誅殺］杜洪（前年八月東晋の征北将軍雍州刺史として自立し長安占拠）、**張琚**は遣使して梁州刺史の**司馬勳**を召く。夏，四月，**勳**は步騎三萬を帥いて之に赴き，秦王の**健**は之を五丈原に禦ぐ。**勳**は屢々戰いて皆な敗れ，退きて南鄭に歸る。**健**は中書令の**賈玄碩**を以て始者（はじめ）に尊號を上（たてまつ）らざるを以て，之を銜（ふく）み，人をして、

「**玄碩**と**司馬勳**は通じる」

と告げ使め，並びて其の諸子も皆な之を殺す。

【後趙滅亡・冉魏衰退に乘じて前燕拡大】

冉魏▲［冉魏の渤海二分と慕容儁の介入］渤海人の**逢約**は趙の亂に因りて，衆數千家を擁して魏（冉閔）に附き，魏は**約**を以て渤海太守と為す。故の太守の**劉准**は，**隗**之兄の子也，土豪の**封放**は，**弈**之從弟也、別に衆を聚めて自ら守る。**閔**は**准**を以て幽州刺史と為し，**約**と渤海を中分す。燕王の**儁**は**封弈**をして**約**を討た使め，昌黎太守の**高開**をして**准**、**放**を討た使む。**開**は，**瞻**（91巻元帝太興二年に見える）之子也。

▲［封弈は逢約を説得す］**弈**（元渤海人で懐帝永嘉五年に慕容廆に託する87巻）は兵を引いて直ちに**約**の壘に抵（いた）り，人を遣わして**約**に謂って曰く、

「鄕里を相い與にし，隔絶すること日久しく，(6-144p) 會々甚難に遇う。時事の利害は，人は各々心有り，論ずる所に非ざる也。願はくは單り出でて一たび相い見みえ，以て佇結（じょけつ）（久しく立ちて待ち企望の情の結ばれて解けない）之情を寫さん。」

約は素より**弈**を信重し，即ち出で，**弈**を門外に見る。各々騎卒を屏けて，單馬にして語を交える。**弈**は與に平生を論敘し畢（お）わり，因りて之を說いて曰く、

「君とは累世の同鄕にして，情は相い愛重す，誠に君が祚（幸福）を享（う）けて無窮なるを欲す。今既に展奉（省視し承け事える、面語する）を獲て，所懷を盡くさざる可からず。**冉閔**は**石氏**之亂に乘り，成資を奄有す，是は宜しく天下は其の強きに服すべし矣，而るに禍亂は方に始まり，固に天命の力爭す可からざるを知る也。

燕王は弈（囲碁?）世、德を載せ，義を奉りて亂を討ち，征する所敵無し。今已に薊に都し，南は趙、魏を臨み，遠近之民は，襁負（幼児を背負う）して之に歸す。民は荼毒を厭い，咸な道有るを思い。**冉閔**之亡びるは，朝に匪ざれば伊れ夕なり，成敗之形は，昭然として見易し。且つ**燕王**は肇めて王業を開き，心を賢俊に虛しくす，君は能く翻然として圖を改めれば，則ち功は**絳**（漢の絳公周勃）、**灌**（灌嬰）に參じ，慶は苗裔に流れん，孰與ぞや亡國の將と為るか，孤城を守りて以て必至之禍を待つ哉！」

約は之を聞き，悵然（うちひしがれて）として言わず。**弈**の給使の**張安**は勇力有り。**弈**は豫め之を戒め，**約**の氣下るを俟ちて，**安**は突き前み其の馬の鞚を持ち，因りて之を挾み而して馳す。營に至り，**弈**は輿に坐し，謂って曰く、

「君の計は自ら決する能わず，故に相い為に之を決し，君を取りて以て功を邀めんと欲するに非ず，乃ち君を全くして以て民を安ぜしめんと欲す也。」

▲［前燕の高開は渤海に入る］**高開**は渤海に至り，**准**、**放**は迎えて降る。**儁**は**放**を以て渤海太守と為し，**准**を左司馬と為し，**約**は軍事に參す。**約**が人に誘われ而して遇獲されるを以て，其の名を更めて**釣**と曰う。

後趙 冉魏［後趙の滅亡、首は鄴に送られる］**劉顯**は趙王の**祗**及び其の丞相の安樂王の**炳**、太宰の**趙庶**等十餘人を弑し，首を鄴に傳える。驃騎將軍の**石寧**は柏人（直隷省大名道唐山県、現・邢台市）に奔る。魏主の**閔**は**祗**の首を通衢に焚き，**顯**を拜して上大將軍、大單于、冀州牧とす。

■五月，趙の兗州刺史の**劉啟**は鄄城（山東省東臨道濮県、現・濮陽市范県）より來奔す。

冉魏秋，七月，**劉顯**は復た兵を引いて鄴を攻め，魏主の**閔**は擊ちて之を敗る。**顯**は還り，襄國に於いて**帝**を稱す。

冉魏■［冉魏南部諸州刺史の晉帰属］八月，魏の徐州刺史の**周成**（廩丘に據る）、兗州刺史の**魏統**、荊州刺史の**樂弘**、豫州牧の**張遇**（許昌に據る）は廩丘、許昌等諸城を以て來降す。平南將軍の**高崇**、征虜將軍の**呂護**は洛州刺史の**鄭系**を執り，其の地を以て來降す。

▲［前燕慕容恪は中山進出］燕王の**儁**は**慕容恪**を遣わして中山を攻め，**慕容評**をして**王午**を魯口に攻めしめ，魏の中山太守の上谷の**侯龕**は閉城して拒み守る。**恪**は南に常山に徇え，九門（直隷省保定道藁城県、現・石家荘市藁城区）に軍す，魏の趙郡太守の遼西の**李邽**は郡を舉げて降り，（6-145p）**恪**は厚く之を撫で，**邽**を將いて還りて中山を圍み，**侯龕**は乃ち降る。**恪**は中山に入り，其の將帥、土豪數十家を遷して薊に詣らしめ，餘は皆な安堵す。軍令は嚴明にして，秋豪も犯さず。**慕容評**は南安に至り，**王午**は其の將の**鄭生**を遣わして拒み戰わしめ，**評**は擊ちて之を斬る。

▲［慕容儁は常煒を許し優遇］**悅綰**は襄國より還る。**儁**は乃ち**張舉**之妄を知り而して之を殺す。**常煒**には四男二女有りて中山に在り，**儁**は**煒**之囚を釋して，諸子をして就きて之を見せ使む。**煒**は上疏して謝恩し，**儁**は手ずから答え令めて曰く、

「卿は本より生計を為さず，孤り州裡（儁は昌黎に居り、常煒は廣寧に居り、皆幽州に属す）を以て相い存する耳。今大亂之中，諸子は盡く至る，豈に天の念う所に非ざる邪！天すら且つ卿を念う，況んや孤に於いてを乎！」妾一人，穀三百斛を賜わり，凡城に居ら使む。北平太守の**孫興**を以て中山太守と為す。**興**は綏撫に善し，中山は遂に安んじる。

▲庫辱官（烏桓の大人庫辱の餘種）の**偉**は部衆を帥いて上黨より燕に降る。

■［姚弋仲・姚襄は東晋に降る］**姚弋仲**は遣使して來たりて降を請う。冬，十一月，**弋仲**を以て使持節、

六夷大都督、督江北（河北）諸軍事、車騎大將軍、開府儀同三司、大單于、高陵郡公と為し，又た其の子の**襄**を以て持節、平北將軍、都督并州諸軍事、并州刺史、平鄉縣公と為す。（後に後秦を建国する西羌族の焼当羌に属する姚氏集団は、甘粛省隴西県出身で、石虎時代に河北省清河に移住。この後東晋から前燕、前秦に帰順し、淝水以後に姚萇は自立）

▲■［逢釣の東晋帰順］**逢釣**は亡げて渤海に歸り，舊衆を招集して以て燕に叛す。樂陵太守の**賈堅**は人をして鄉人に告諭せ使めて，示すに成敗を以てし，**釣**の部衆は稍く散じ，遂に來奔す。

吐谷渾吐谷渾の**葉延**は卒し，子の**碎奚**（晉書吐谷渾傳には辟奚に作る）は立つ。

【桓温に振り回される朝廷】

■［桓溫は北伐実行］初め，**桓溫**は**石氏**の亂を聞き，上疏して師を出して中原を經略せんと請い，事久しく報ぜられず。**溫**は朝廷の**殷浩**に仗りて以て己に抗するを知り，甚だ之を忿る。然るに素より**浩**之人と為りを知り，亦た之を憚からざる也。國に他に釁無きを以て，遂に相い持ちて年を彌（わた）るを得，君臣之跡有ると雖も（晉書桓溫傳より補う），羈縻（きび）而して已，八州の士衆資調（資財調賦）は殆んど國家の用を為さず。屢々北伐を求め，詔書して聽さず。十二月，辛未（１１日），**溫**は拜表して輒ち行き，衆四五萬を帥いて流れに順い而して下り，武昌に軍し，朝廷は大いに懼れる。

■［殷浩など朝廷側の対応策］**殷浩**は位を去りて以て**溫**を避けんと欲し，又た**騶虞幡**を以て**溫**の軍を駐めんと欲す。吏部尚書の**王彪之**は會稽王の**昱**に言って曰く、

「此の屬は皆な自ら計を為す，能く社稷を保ち，**殿下**の計を為すに非ざる也。若し**殷浩**が職を去れば，人情は離れ駭き，天子は獨り坐せん，此之際に當たりて，必ず其の責に任ずる者有らん，**殿下**に非ざれば而して誰ある乎！」

又た**浩**に謂って曰く、

「彼が若し抗表して罪を問えば，卿は之が首（しゅ）と為らん。事任は此くの如し（殷浩が朝政担当），猜釁（殷浩と桓溫の隙間）は已に成り，匹夫と作（な）らんと欲するも，豈に全地有らん邪！且（しばら）く當に靜かに以て之を待つべし。**相王**をして手書を與え，示して款誠を以てし，為に成敗を陳ぜ令めば，彼は必ず師を旋（かえ）さん。若し從わざれば（6-146p），則ち中詔を遣わせ。又た從わざれば，乃ち當に正義（桓溫が兵を挙げて朝廷に迫る罪）を以て相い裁すべし。奈何して故無く匆匆（慌てて）として，先ず自ら猖獗（猛威を振るう）せん乎！」

浩は曰く、

「大事を決するは正に自ら難し，頃日來人をして悶ぜ使めんと欲す。卿の此の謀を聞き，意は始めて了（決）するを得たり。」

彪之は，**彬**（王敦の乱によく正を守る）**之**子也。

■［桓溫を回軍に追い込む］撫軍（昱は撫軍大将軍）司馬の**高崧**は**昱**に言って曰く、

「王は宜しく書を（桓溫に）致し，諭ずるに禍福（利益不利益）を以てすべし。（溫は）自ら當に旆（はい）を返すべし。如（も）し其の爾（しか）らざれば（桓溫が軍を返さない場合），便ち六軍駕を整えよ，逆順は茲（ここ）に於いて判ぜん矣！」

乃ち坐に於いて**昱**の為に書を草して曰く、

「寇難は宜しく平らぐべし，時會（この時中原の豪傑が相次いで来降して回復する機会あり）は宜しく接すべし。此れ實に國の遠圖，經略の大算と為す，能く斯の會を弘めるは，足下に非ずして而して誰あるや？但だ以（おも）うに比（このごろ）師を興して衆を動かすには，要（かな）らず當に資實を以て本と為すべし。運轉之艱きは，古人の難ずる所にして，之を始めに易しとし（軽んじる）而して熟慮せざる可からず。頃（このごろ）深く用って疑いと為す所以は，惟だ此に在る耳。然るに異常之舉は，衆之駭く所，游聲は噂（そん）［口沓（ちょう）］（世間は喧しい），想うに足下も亦た少し之

を聞かん。苟くも之を失わんことを患えば，至らざる所無し（論語陽貨篇の孔子の言），或いは能く風を望みて振擾し，一時に崩れ散らん。此くの如くならば則ち望實は並びて喪われ，社稷之事は去る矣。皆吾が闇弱にして，德信は著われず，群庶を鎮靜し，維城（宗族、詩に曰く、宗子は維れ城と）を保ち固める能わざるに由る，内は心に愧じ，外は良友に慚じる所以なり。吾は足下と與に，職は内外有りと雖も，社稷を安んじ，家國を保つは，其の致（極致）るは一也。天下の安危は，之を明德に系けん。當に先ず國を寧んじるを思い而る後に其の外を圖るべし，王基をして克く隆んに，大義をして弘く著わ使めるは，足下に望む所なり。區區たる誠懷は，豈に復た嫌を顧みて而して盡くさざる可けん哉！」

溫は即ち上疏し惶恐して謝を致し，軍を回して鎮に還る。

■［郊祀に赦有るや］朝廷は將に郊祀を行わんとす。會稽王の**昱**は**王彪之**に問いて曰く、

「郊祀は應に赦有るや否や？」

彪之は曰く、

「中興より以來，郊祀は往往にして赦有り，愚意は常に謂えらく、宜しきに非ずと。凶愚之人は，郊に必ず赦有りと以て為せば，將に心を徼幸に生ぜんとす矣！」

昱は之に從う。

▲燕王の**儁**は龍城に如く。

丁零 丁零の**翟鼠**は所部を帥いて燕に降り，封じて歸義王と為す。

孝宗穆皇帝中之上永和八年（壬子，３５２年）

■春，正月，辛卯（１日），日、之を食する有り。

【苻健皇帝即位】

前秦［苻健は皇帝に即位］秦の丞相の**雄**等は秦王の**健**に請う、

「尊號を正すこと，漢、晉之舊に依り，必ずしも**石氏**之初め（石虎兄弟はまず天王と称し、後に皇帝となる）に效わず。」(6-147p)

健は之に從い，**皇帝**に即位し，大赦す。諸公は皆な進爵して王と為す。且つ言わく、

「單于は壹百蠻を統べる所以にして，天子の宜しく領する所に非ず」

と、以て太子の**萇**に授ける。

前秦［張琚の自立］**司馬勳**は既に漢中に還り，**杜洪**、**張琚**は宜秋（陝西省關中道涇陽県、現・咸陽市涇陽県）に屯す。**洪**は自ら右族なりを以て，**琚**を輕んじ，**琚**は遂に**洪**を殺し，自ら立ちて秦王と為し，改元して建昌とす。

冉魏［冉魏は劉顯を討伐］**劉顯**は常山を攻め，魏主の**閔**は大將軍の**蔣干**を留めて太子の**智**を輔けて鄴を守ら使め，自ら八千騎を將して之を救う。**顯**の大司馬の清河の**王寧**は棗彊（直隷省大名道棗彊県、現・衡水市棗彊県）を以て魏に降る。**閔**は**顯**を擊ち，之を敗り，奔るを追いて襄國に至る。**顯**の大將軍の**曹伏駒**は開門して**閔**を納める。**閔**は**顯**及び其の公卿己下百餘人を殺し，襄國の宮室を焚き，其の民を鄴に遷す。

■［趙の石氏は断絶］趙の汝陰王**の琨**は其の妻妾を以て來奔す。建康の市に斬り，**石氏**は遂に絶える。

■［近年の降附之徒は人面獸心］尚書左丞の**孔嚴**は**殷浩**に言って曰く、

「比來の衆情は，良に寒心す可し，使君は當に何を以て之を鎮すべきかを知らず。愚は謂うに宜しく受任之方を明らかにし，**韓**、**彭**（漢の韓信・彭越）は專ら征伐し，**蕭**、**曹**（漢の蕭阿・曹参）は管籥（鍵）を守り，内

外之任は，各々司る攸(ところ)有り。深く**廉**、**藺**（戦国の趙の廉頗、藺相如、４巻周の赧王 36 年にあり）が身を屈する之義，**平**、**勃**（漢の陳平、周勃、13 巻漢の高后七年にあり）の歡を交える之謀を思い，穆然（平和静然）として間無から使め，然る後に以て大を保ち功を定める可き也。頃日(けいじつ)の降附之徒を觀れば，皆な人面獸心にして，貪りて而して親無し，恐らくは義を以て感じるは難き也。」

浩は從わず。**嚴**は，愉之從子也。

■［殷浩の北転出は難航、謝尚を壽春へ］**浩**は上疏して北に許、洛に出るを請い，詔して之を許す。安西將軍の**謝尚**、北中郎將の**荀羨**を以て督統と為し，進みて壽春に屯ぜしむ。**謝尚**は**張遇**を撫尉する能わず，**遇**は怒り，許昌に據りて叛し，其の將上の**官恩**をして洛陽に據ら使め，**樂弘**をして督護の**戴施**を倉垣に攻めしめ，**浩**の軍は進む能わず。三月，**荀羨**に命じて准陰に鎮ぜしめ，尋いで監青州諸軍事を加え，又た兗州刺史を領し，下邳に鎮ぜしむ。

▲乙巳（１６日），燕王の**儁**は薊に還り，稍く（軍民の故郷を思う心に配慮して）軍中の文武兵民の家屬を薊に徙す。

【姚襄は東晋に仮住まい】

姚襄［姚襄集団の流浪］**姚弋仲**は子四十二人有り，病むに及びて，諸子に謂って曰く、

「**石氏**は吾を待つこと厚く，吾は本より之が為に力を盡くさんと欲す。今**石氏**は已に滅び，中原には主無し。我死すれば，汝は亟(すみやか)に自ら晉に歸し，當に固く臣節を執り，不義を為す無かれ也！」

弋仲は卒し，子の**襄**は秘して喪を發せず，戸六萬を帥いて(灞頭より)南に陽平（山東省東臨道莘県、現・聊城市莘県）、元城（直隷省大名道大名県、現・邯鄲市大名県）、發乾（山東省東臨道堂邑県西南 33 里、現・聊城市東昌府区）を攻め，之を破り，碻磝津（山東省東臨道東阿県、現・聊城市東阿県）に屯し，太原の**王亮**を以て長史と為し，天水の**尹赤**を司馬と為し，太原の**薛瓚**、略陽の**權翼**を參軍と為す。**襄**は秦兵と戰い，敗れ，三萬餘戸を亡い，南に滎陽に至り，始めて喪を發す。又た秦將の**高昌**（元趙の将）、**李歷**（元趙の将）と麻田（滎洛の間の麻を植える地）に戰い（6-148p），馬は流れ矢に中たり而して斃れる。弟の**萇**は馬を以て**襄**に授け，**襄**は曰く、

「汝は何を以て自ら免かれるや？」

萇は曰く、

「但だ兄をして濟ら令めん，豎子は必ず敢えて**萇**を害せず！」

會々救いは至り，俱に免れる。**尹赤**は秦に奔り，秦は**赤**を以て并州刺史と為し，蒲阪に鎮ぜしむ。

姚襄■［姚襄集団は東晋に附く］**襄**は遂に衆を帥いて晉に歸し，其の五弟を送りて質と為す。襄に詔して譙城に屯ぜしむ，**襄**は單騎淮を渡り，**謝尚**を壽春に見る。**尚**は其の名を聞き，命じて仗衛を去り，幅巾して之を待ち，歡は平生の若し。**襄**は博學にして，善く談論し，江東の人士は皆な之を重んず。

【冉魏滅亡】

冉魏［冉閔は常山中山に游食］魏主の**閔**は既に襄國に克ち，因りて常山、中山の諸郡に游食す。趙の立義將軍の**段勤**は胡、羯の萬餘人を聚めて繹幕（漢以来清河に属する県、山東省済南道平原県、現・徳州市平原県）を保ち據り，自ら趙帝と稱す。夏，四月，甲子（１日），燕王の**儁**は**慕容恪**を遣わして魏を擊ち，**慕容霸**等をして**勤**を擊たしむ。

冉魏［冉閔は側近の諫止を振り切り出陣］魏主の**閔**は將に燕と戰わんとし，大將軍の**董閏**、車騎將軍の**張溫**は諫めて曰く、

「鮮卑は勝ちに乗りて鋒は鋭く，且つ彼は衆く我は寡し，請う且く之を避け，其の驕惰を俟ちて，然る後に兵を益して以て之を撃たん，」
閔は怒りて曰く、
「吾は此の衆を以て幽州を平らげ，**慕容儁**を斬らんと欲す。今**恪**に遇い而して之を避ければ，人は我を何と謂うや！」
司徒の**劉茂**、特進郎の**闓**は相い謂って曰く、
「吾が君の此の行は，必らず還らず矣，吾等は何為(なにす)れぞ坐して戮辱を待つや！」
皆な自殺す。
▲冉魏［騎兵で慕容恪は大勝］**閔**は安喜（中山郡の県、直隷省保定道定県治、現・定州市）に軍し，**慕容恪**は兵を引いて之に従う。**閔**は常山に趣き，**恪**は之を追い，丙子（１３日），魏昌（中山郡の県、直隷省保定道無極県、現・石家荘市無極県）之廉臺に及ぶ。**閔**は燕兵と十戰し，燕兵は皆な勝たず。**閔**は素より勇名有り，將いる所の兵は精鋭にして，燕人は之を憚れる。**慕容恪**は陳を巡り，將士に謂って曰く、
「**冉閔**の勇は而して無謀なり，一夫の敵する耳！其の士卒は饑え疲れ，甲兵は精なりと雖も，其の實は用い難し，破るに足らざる也（破るは容易）！」
閔の將いる所の多くは步卒なり，而して燕は皆な騎兵なるを以て，兵を引いて將に林中に趣かんと欲す。**恪**の參軍の**高開**は曰く、
「吾は騎兵にして平地に利あり，若し**閔**が林に入るを得れば，復た制す可からず。宜しく亟(すみやか)に輕騎を遣わして之を邀えるべし，既に合して而して陽(いつわ)りて走り，誘いて平地に致り，然る後に擊つ可き也」。
恪は之に從う。魏兵は還りて平地に就き，**恪**は軍を分けて三部と為し，諸將に謂って曰く、
「**閔**の性は輕鋭にして，又た自ら衆の少なきを以て，必ずや死を我に致さん。我は厚く中軍之陳を集め以て之を待ち，其の合戰するを俟ちて，卿等は旁より之を擊てば，克たざる無し矣。」
乃ち鮮卑の善く射る者五千人を擇び，鐵鎖を以て其の馬を連ね，方陳を為して而して前む。**閔**の乘る所の駿馬は朱龍と曰い，日に千里を行く。**閔**は左に雙刃の矛を操り，右に鉤戟を執り，以て燕兵を擊ち，斬首するは三百餘級。大幢を望見し，其の中軍為(た)るを知り，直ちに之を衝く。燕の兩軍は旁より夾擊し，大いに之を破る。**閔**を數重にも圍み，**閔**は圍みを潰(ついや)して東に走ること二十餘里，朱龍は忽ち斃れ（6-149p），燕兵の執る所と為る。燕人は魏の僕射の**劉群**を殺し，**董閔**（董閔なり）、**張溫**，及び**閔**（前巻に自立記事あり）を執りて皆な薊に送る。**閔**の子の**操**は魯口に奔る。**高開**は被創して而して卒す。**慕容恪**は進みて常山に屯し，**儁**は**恪**に命じて中山に鎮ぜしむ。
▲［夷狄禽獣之類の類も皇帝を称す］己卯（２１日），**冉閔**は薊に至る。**儁**は大赦し，**閔**を立てて而して之を責めて曰く、
「汝は奴僕の下才，何ぞ妄りに**帝**を稱するを得るや？」
閔は曰く、
「天下は大亂す，**爾**(なんじ)が**曹**(ともがら)の夷狄禽獣之類もまた猶ほ**帝**を稱する，況んや我は中土の英雄なり，何為ぞ**帝**と稱するを得ざる邪！」
儁は怒り，之を鞭うつこと三百，龍城に送る。
▲**慕容霸**の軍は繹幕に至り，**段勤**は弟の**思陪**と與に城を舉げて降る。
▲［前燕の鄴攻略作戦］甲申（２６日），**儁**は**慕容評**及び中尉の**侯龕**を遣わして精騎萬人を帥いて鄴を攻めしむ。癸巳（３０日），鄴に至り，魏の**蔣干**及び太子の**智**は閉城して拒み守る。城外は皆な燕に降り，

劉寧（劉顕の将）及び弟の**崇**は胡騎三千を帥いて晉陽に奔る。
前秦秦は**張遇**を以て征東大將軍、豫州牧と為す。
前秦［**苻健は張琚を宜秋に攻め斬る**］五月，秦主の**健**は**張琚**を宜秋に攻め，之を斬る。
▲■［**鄴は飢え宮人食い尽くされる**］鄴中は大いに饑え，人は相い食み，故の趙の時の宮人は食せ被れて略ぼ盡く。**蔣干**は侍中の**繆嵩**、詹事の**劉猗**を遣わして奉表して降を請わしめ，且つ救いを**謝尚**に求める。庚寅（２日），燕王の**儁**は廣威將軍の**慕容軍**、殿中將軍の**慕輿根**、右司馬の**皇甫真**等を遣わして歩騎二萬を帥いて**慕容評**を助けて鄴を攻めしむ。
▲［**冉閔誅殺の祟り**］辛卯（３日），燕人は**冉閔**を龍城にて斬る。會々大旱し，蝗ありて，燕王の**儁**は**閔**が祟りを為すと謂い，遣使して之を祀り，謚して**悼武天王**と曰う。

■［**戴施は傳國の璽を偽り取る**］初め，**謝尚**は**戴施**をして枋頭に據ら使め，**施**は**蔣干**の救いを求めるを聞き，乃ち倉垣（河南省開封道開封県、現・開封市祥符区）より徙りて棘津に屯し，**干**の使者を止めて傳國の璽を求める。**劉猗**は**繆嵩**をして鄴に還りて**干**に白さ使め，**干**は**尚**が救う能わざるを疑いて，沈吟して未だ決せず。六月，**施**は壯士百餘人を帥いて鄴に入り，助けて三臺を守り，之を紿（あざむ）いて曰く、
「今燕寇は外に在り，道路は通じず，璽は未だ敢えて送らざる也。卿は且く出して以て我に付すべし，我は當に（使いを）馳せて**天子**に白すべし。**天子**は璽が吾の所に在るを聞けば，卿の至誠を信じ，必ず多く兵糧を發して以て相い救い餉（はなむけ）せん。」
干は以て然ると為し，璽を出して之に付す。**施**は
「督護の**何融**をして迎糧を迎え使む」
と宣言し，（何融に）陰かに璽を懐きて枋頭に送ら令む。甲子（６日），**蔣干**は鋭卒五千及び晉兵を帥いて出でて戰い，**慕容評**は大いに之を破り，斬首は四千級，**干**は脱走して城に入る。
前秦甲申（２６日），秦主の**健**は長安に還る。
■前秦［**苻雄は張遇を助けて謝尚、姚襄を破る**］**謝尚**、**姚襄**は共に**張遇**を許昌に攻める。秦主の**健**は丞相の東海王の**雄**、衛大將軍の平昌王を**菁**を遣わして關東を略地し，歩騎二萬を帥いて之を救わしむ。丁亥（２９日），潁水之誠橋（許昌にあり）に於いて戰い，**尚**等は大いに敗れ，死者は萬五千人。**尚**は奔りて淮南に還り，**襄**は輜重を棄て，**尚**を芍陂に送る。**尚**は悉く後事を以て**襄**に付す。(6-150p) **殷浩**は**尚**の敗れるを聞き，退きて壽春に屯す。秋，七月，秦の丞相の**雄**は**張遇**及び陳、潁、許、洛之民五萬餘戸を關中に徙し（この後、張遇勢力は苻氏に制せられる），右衛將軍の**楊群**を以て豫州刺史と為し，許昌に鎮ぜしむ。**謝尚**を降して，建威將軍と號す。

■趙の故の西中郎將の**王擢**は遣使して降を請う。**擢**を拜して秦州刺史とす。
■丁酉（１０日），武陵王の**晞**を以て太宰と為す。
▲丙辰（２９日），燕王の**儁**は中山に如く。
▲**王午**は魏の敗れるを聞く，時に**鄧恆**は已に死し，**午**は自ら安國王を稱す。八月，戊辰（１１日），燕王の**儁**は**慕容恪**、**封弈**、**陽騖**を遣わして之を攻めしめ，**午**は閉城して自ら守り，**冉操**を送りて燕軍に詣す。燕人は其の禾稼を掠めて而して還る。（慕容恪は戦略的に無理をせず）
▲［**鄴城陥落し冉智を執る、傳國の璽は得ず**］庚午（１３日），魏の長水校尉の**馬願**等は鄴城を開いて燕兵を納れ，**戴施**、**蔣干は**懸縋して而して下り，倉垣に奔る。**慕容評**は魏の后の**董氏**、太子の**智**、太尉の**申**

鐘、司空の**條攸**等及び乘輿服御を薊に送る。尚書令の**王簡**、左僕射の**張乾**、右僕射郎の**肅**は皆な自殺す。燕王の**儁**は詐りて云う、
「**董氏**は傳國の璽を得て之を獻ず」
と，號を奉璽君と賜い，**冉智**に爵の海賓侯を賜る。**申鐘**を以て大將軍右長史と為す。**慕容評**に命じて鄴に鎮ぜしむ。

【王羲之の諫言】

■**桓溫**は**司馬勳**をして**周撫**を助けて**蕭敬文**を涪城（97 巻永和三年に四年拠る）に討た使め，之を斬る。

■［東晋は傳國の璽を得る］**謝尚**は枋頭より傳國の璽を迎えて建康に至り，百僚は畢（ことごと）く賀す。
前秦秦は**雷弱兒**を以て大司馬と為し，**毛貴**を太尉と為し，**張遇**を司空と為す。

■［王羲之の殷浩への諫言］**殷浩**之北伐する也，中軍將軍の**王羲之**は書を以て之を止めるも，聽かず。既に而して功無く，復た再舉を謀る。**羲之**は**浩**に書を遺りて曰く、
「今區區たる江左を以て，天下は寒心し（自ら保つ能わざるを恐れる），固より已に久しき矣。武功を力爭するは，當に作（な）す所に非ず。頃（このごろ）より内外之任に處る者は，未だ深謀遠慮有らず，而して根本を疲れ竭し，各々志す所に從いて，竟に一功の論ず可く無く，遂に天下をして將に土崩之勢い有らんとせ令む。其の事に任ずる者は（殷浩がその責を辞するを得ざること），豈に四海之責めを辭するを得ん哉！今軍は外に破れ，資は内に竭き，淮を保つ之志は，復た及ぶ所に非ず，還りて長江を保ち，督將は各々舊鎮に復す處、長江より以外は，羈縻而して已むに若くは莫し。咎を引き躬を責め，更めて善治を為し，其の賦役を省き，民と更始すれば，庶（こいねが）わくは以て倒懸（逆さ吊り、激しく苦しい）之急を救う可からん也！使君は布衣より起こり，天下之重きに任じ，董統之任に當（あ）たり，而して敗喪すること此くに至る，恐らくは闔（扉）朝の群賢は未だ人（殷浩）と其の謗りを分かつ者有らず。若し猶ほ前事を以て未だ工ならずと為し，故に復た之を分外に求めれば，宇宙は廣しと雖も，自ら何の所に容れん！此れ愚智の解せざる所也。」

■［王羲之の會稽王昱への進言］又た會稽王の**昱**に箋を與えて曰く、
「人臣と為る者は誰か其の主を尊び隆を前世に比すを願わずや！況んや得難き之運に遇うを哉！（6-151p）顧るに力の及ばざる所有り，豈に輕重を權（はか）りて而して之を處せざる可からざる也！今は喜ぶ可き之會有ると雖も，内に諸を己に求め，而して憂うる所は乃ち喜ぶ所より重し。功は未だ期す可からず，遺した黎（きび）は殲盡し，勞役は時無く，徵求は日々に重く，區區たる吳、越を以て天下十分之九を經緯せんとし，亡びずして何をか待たんや！而るに德を度（はか）り力を量らさせれば，弊（やぶ）れずして己まず，此の封内の心を痛めて歎悼し而して敢えて誠を吐く莫き所の者也。『往く者は諫める可からず，來る者は猶ほ追う可し。』（論語の微子篇）願はくは**殿下**は更に三思を垂れ，先ず（敵の我に）勝つ可からざる之基を為し，根立ち勢い擧がるを須ちて，之を謀るも未だ晩からず。若し行かざれば，恐らくは麋鹿之遊ぶに，將に林藪に止まり而して已にならざらん！願はくは**殿下**は暫く虛遠之懷い（昱が清虛玄遠を好みて論じるを揶揄）を廢し，以て倒懸之急を救はん，亡を以て存と為し，禍いを轉じて福と為すと謂う可き也。」
從わず。

■［学徒動員で大学廃止］九月，**浩**は泗口に屯し，河南太守の**戴施**を遣わして石門に據らしめ，滎陽太守の**劉遯**を倉垣に據らしむ。**浩**は軍の興こるを以て，太學（元帝建武元年に初めて設置）の生徒を罷遣し，學校は此に由りて遂に廢す。

■冬，十月，**謝尚**は冠軍將軍の**王倓**を遣わして許昌を攻め，之に克つ。秦の豫州刺史の**楊群**は退きて弘農

に屯す。**尚**を徴して給事中と為し，石頭に戍せしむ。

【慕容儁は勢力拡大、皇帝に即位】

▲丁卯（１１日），燕王の**儁**は薊に還る。

▲［州郡の趙將は燕に降る］故の趙將の兵を擁して州郡に據る者は，各々遣使して燕に降る。燕王の**儁**は**王擢**を以て益州刺史と為し，**夔逸**（きいつ）を秦州刺史と為し，**張平**を并州刺史と為し，**李歴**を兗州刺史と為し，**高昌**を安西將軍と為し，**劉寧**を車騎將軍と為す。

▲［慕容恪は中山の蘇林を討つ］**慕容恪**は安平（直隷省保定道安平県、現・衡水市安平県）に屯し，糧を積み，攻具を治め，將に**王午**を討たんとす。丙戌（３０日），中山の**蘇林**は兵を無極（直隷省保定道無極県、現・石家荘市無極県）に起こし，自ら天子を稱す。**恪**は魯口より還りて**林**を討つ。閏月，戊子（３日、元嘉暦十一月），燕王の**儁**は廣威將軍の**慕輿根**を遣わして**恪**を助けて**林**を攻めしめ，之を斬る。**王午**は其の將の**秦興**の殺す所と為る。**呂護**は**興**を殺し，復た自ら安國王を稱す。

▲［慕容儁は前燕皇帝に即位］燕の群僚は共に尊號を燕王の**儁**に上り，**儁**は之を許す。十一月，丁卯（１２日、元嘉暦十二月），始めて百官を置き，國相の**封弈**を以て太尉と為し，左長史の**陽鶩**を尚書令と為し，右司馬の**皇甫真**を尚書左僕射と為し，典書令の**張悕**を右僕射と為す。其の餘の文武は，拜授して差有り。戊辰（１３日），**儁**は**皇帝**に即位し，大赦す。自ら、

「傳國の璽を獲たり」

と謂い，改元して元璽とす。**武宣王**（慕容廆）を追尊して**高祖武宣皇帝**と為し，**文明王**（慕容皝）を**太祖文明皇帝**と為す。時に晉の使いは適々燕に至り，**儁**は謂って曰く、

「汝は還り，汝の**天子**に白せ。我は人の乏しきを承け，中國の推す所と為る，已に**帝**と為る矣！」

司州（趙は鄴に置く）を改めて中州と為し，留臺を龍都（龍城）に建て，玄菟太守の**乙逸**を以て尚書と為し，（6-152p）專ら留務を委ねる。

前秦 前涼［王擢は前涼に逃亡］秦の丞相の**雄**は**王擢**を隴西に攻め，**擢**は涼州に奔り，**雄**は還りて隴東に屯す。**張重華**は**擢**を以て征虜將軍、秦州刺史と為し，特に之を寵待す。

孝宗穆皇帝中之上永和九年（癸丑，３５３年）

■春，正月，乙卯（１日、元嘉暦一月閏）朔，大赦す。

▲二月，庚子（１７日），燕王の**儁**は其の妃の**可足渾氏**を立てて**皇后**と為し，世子の**暐**を**皇太子**と為し，皆な龍城より薊宮に遷す。

前秦 前涼［前涼は王擢らに秦を攻めさせ敗退］**張重華**は將軍の**張弘**、**宋修**を遣わして**王擢**に會して騎萬五千を帥いて秦を伐たしむ。秦の丞相の**雄**、衛將軍の**菁**は之を拒み，大いに涼兵を龍黎（陝西省關中道隴県、現・宝鶏市隴県）に敗り，斬首は萬二千級，**張弘**、**宋修**を虜とし，**王擢**は秦州を棄てて，姑臧に奔る。秦主の**健**は領軍將軍の**苻願**を以て秦州刺史と為し，上邽に鎮ぜしむ。

■三月，交州刺史の**阮敷**は林邑を討ち，五十餘壘を破る。

▲趙の故の衛尉の常山の**李犢**は衆數千人を聚めて燕に叛す。

前秦西域胡の**劉康**は詐りて**劉曜**の子と稱し，衆を平陽に聚め，自ら晉王と稱す。夏，四月，秦の左衛將軍の**苻飛**は討ちて之を擒とす。

■安西將軍の**謝尚**を以て尚書僕射と為す。

前涼 前秦■[前涼の王擢は秦に勝つ]五月，**張重華**は復た**王擢**をして衆二萬を帥いて上邽を伐た使め，秦州の郡縣は多く之に應じる。**苻願**は戰いて敗れ，長安に奔る。**重華**は因りて上疏して秦を伐つを請う。詔して**重華**を進めて涼州牧とす。

▲燕主の**儁**は衛將軍の**恪**を遣わして**李犢**を討たしめ，**犢**は降り，遂に東に**呂護**を魯口に擊つ。

前秦 仇地 [苻飛は仇地の楊初を伐つ] 六月，秦の**苻飛**は氐王の**楊初**（險に拠りて禦ぐ）を仇池に攻め，**初**の敗る所と為る。丞相の**雄**、平昌王の**菁**は步騎四萬を帥いて隴東に屯す。

前秦 [苻健は反乱相次ぐ] 秦主の**健**は**張遇**の繼母の**韓氏**を納れて昭儀と為し，數々衆中に於いて**遇**に謂って曰く、

「卿は，吾の假りの子也。」

遇は之を恥じ，**雄**等の精兵は外に在るに因りて，陰かに關中の豪傑に結び，**苻氏**を滅ぼし，其の地を以て來降せんと欲す。秋，七月，**遇**は黄門の**劉晃**と謀りて**健**を夜襲し，**晃**は開門して以て之を待つを約す。會々**健**は**晃**をして外に出で使め，**晃**は固辭すれども，已むを得ず而して行く。**遇**は知らず，兵を引いて門に至り，門は開かず。事は覺われ，伏して誅す。是に於いて**孔持**は池陽(陝西省關中道三原県・涇陽県、現・咸陽市三原県・涇陽県)に起こり，**劉珍**、**夏侯顯**は鄠（陝西省關中道鄠(こ)県、現・西安市鄠邑区）に起こり，**喬秉**は雍（陝西省關中道鳳翔県、現・宝鶏市鳳翔区）に起こり，**胡陽赤**は司竹（陝西省關中道盩厔県の東南 30 里、現・西安市周至県）に起こり，**呼延毒**は灞城（陝西省關中道長安県、現・西安市長安区）に起こり，衆數萬人，各々遣使して來たりて兵を請う。(6-153p)

前秦秦は左僕射の**魚遵**を以て司空と為す。

前秦 [苻雄は苻飛らと反乱鎮圧] 九月，秦の丞相の**雄**は衆二萬を帥いて長安に還り，平昌王の**菁**を遣わして上洛（陝西省關中道商県、現・商洛市商州区）を略定せしめ，荊州を豐陽川(商県の界)に置き，步兵校尉の金城の**郭敬**を以て刺史と為す。**雄**は清河王の**法**、**苻飛**と分けて**孔持**等を討つ。

【姚襄の人気を危ぶむ殷浩】

姚襄 [殷浩は姚襄の暗殺に失敗] **姚襄**は歷陽に屯し，燕、秦の方に強きを以て，未だ北伐之志有らず（元々關中の出身地への帰還を目指した），乃ち淮を夾んで廣く屯田を興こし，將士を訓厲す。**殷浩**は壽春に在り，其の強盛を惡んで，**襄**の諸弟を囚え，屢々刺客を遣わして之を刺さしめんとすれども，刺客は皆な情を以て**襄**に告ぐ。安北將軍の**魏統**（前年に降る）は卒し，弟の**憬**は代わりて部曲を領す。**浩**は潛かに**憬**を遣わして衆五千を帥いて之を襲わしめ，**襄**は**憬**を斬り，其の衆を幷わす。**浩**は愈々之を惡み，龍驤將軍の**劉啟**をして譙を守ら使め，**襄**を梁國の蠡臺(れいだい)（河南省開封道商丘県、現・商丘市睢陽区）に遷し，表して梁國の内史を授く。

姚襄■ [姚襄を弁護する權翼] **魏憬**の子弟は數々壽春に往來し，**襄**は益々疑い懼れ，參軍の**權翼**を遣わして**浩**に使いせしむ。**浩**は曰く、

「身（自分）は**姚**平北と共に王臣為(た)り，休戚は之を同じくす。**平北**は毎に舉動は自ら專らにし，甚だ輔車（車と添え木の密接な関係）之理を失う，豈に望む所なる也！」

翼は曰く、

「**平北**の英姿は絶世にして，兵數萬を擁して而して遠く晉室に歸する者は，朝廷に道有り，宰輔の明哲なるを以ての故也。今將軍は輕々しく讒慝(ざんとく)之言を信じ，**平北**と隙有り，愚は謂(おも)うに猜嫌之端は，此に在りて彼に在らざる也。」

浩は曰く、
「**平北**の姿性は豪邁にして，生殺は自由，又た小人を縱(ほしいまま)にして吾が馬を掠奪す。王臣之體は，固(まこと)に是の若き乎？」
翼は曰く、
「**平北**は命を聖朝に歸し，豈に肯て妄りに無辜を殺さんや！奸宄（法を犯す）之人は，亦た王法の容れざる所也，之を殺すとも何の害あるや！」
浩は曰く、
「然らば則ち馬を掠するは何ぞ也？」
翼は曰く、
「將軍は**平北**の雄武が制し難きを謂い，終に將に之を討たんとす，故に馬を取り以て自ら衛らんと欲する耳。」
浩は笑いて（權翼の言は的を得ている）曰く、
「何ぞ是に至る也！」
■［殷浩は雷弱兒・姚襄に欺かれて北伐大敗］初め，**浩**は陰かに人を遣わして秦の**梁安**、**雷弱兒**を誘いて，秦主の**健**を殺さ使めんとし，許すに關右之任を以てし，**弱兒**は偽りて之を許し，且つ兵をもて應接せんと請う。**浩**は**張遇**の亂を作(な)し，**健**の兄の子の輔國將軍の**黄眉**が洛陽より西に奔ると聞き，以為らく**安**等の事は已に成ると。冬，十月，**浩**は壽春より衆七萬を帥いて北伐し，進みて洛陽に據り，園陵を修復せんと欲す。吏部尚書の**王彪之**は會稽王の**昱**に箋を上り，以て為す、
「**弱兒**等は詐偽有る容(べ)し，**浩**は未だ應に輕々しく進むべからず。」
從わず。**浩**は**姚襄**を以て前驅と為す。**襄**は兵を引いて北行し，**浩**が將に至らんとするを度(はか)り，詐りて部衆をして夜遁(のが)れ令め，陰かに甲を伏して以て之を邀える。**浩**は聞きて而して**襄**を追いて山桑（譙郡の県、安徽省淮泗道蒙城県、現・亳州市蒙城県）に至る。**襄**は兵を縱ちて之を擊ち，**浩**は大敗し，輜重を棄て，走りて譙城（亳州市）を保つ。**襄**は俘を斬ること萬餘，悉く其の資仗を收め，兄の**益**をして山桑を守ら使め（6-154p），**襄**は復た淮南に如く。會稽王の**昱**は**王彪之**に謂って曰く、
「君の言は中(あた)らざるは無し，**張**（漢の張良）、**陳**（漢の陳平）は以て過ぎる無き也！」

【張重華の後継争い激化】

前涼［張重華は病、跡継問題］西平の敬烈公の**張重華**は疾有り，子の**曜靈**は才かに十歳，立てて世子と為し，其の境内に赦す。**重華**の庶兄の長寧侯の**祚**は，勇力、吏干（才幹）有り，而して傾巧（狡猾詐術）にして善く内外に事(つか)え，**重華**の嬖臣の**趙長**、**尉緝**等と異姓兄弟を結ぶ。都尉の**常據**は之を出さんと請い，**重華**は曰く、
「吾は方に**祚**を以て周公と為し，幼な子を輔け使めんとす，君は是れ何の言ぞ也！」
前涼［張重華は謝艾に後事を託す］**謝艾**は枹罕之功（97巻永和三年）を以て**重華**に寵有り，左右は之を疾み，**艾**を譖り，出でて酒泉太守と為る。**艾**は上疏して言わく、
「權幸は事を用い，公室は將に危うからんとす，乞う臣が入りて侍すを聽(ゆる)せ。」
且つ言わく、
「長寧侯の**祚**及び**趙長**等は將に亂を為さんとす，宜しく盡く之を逐(お)うべし。」
十一月，己未（１０日），**重華**の疾は甚しく，手ずから令して**艾**を徵して衛將軍と為し，中外諸軍事を監

ぜしめ，政を輔けしむ。**祚**、**長**等は匿して而して宜せず。
前涼［重華死後の趙長の陰謀で張祚輔政］丁卯（１８日），**重華**は卒し，世子の**曜靈**は立ち，稱して大司馬、涼州刺史、西平公とす。**趙長**等は**重華**の遺令を矯り，長寧侯の**祚**を以て都督中外諸軍事、撫軍大將軍と為し，政を輔けしむ。

■［姚襄は劉啟・王彬之を破り芍陂進駐］**殷浩**は部將の**劉啟**、**王彬之**をして**姚益**を山桑に攻め使む。**姚襄**は淮南より之を撃ち，**啟**、**彬之**は皆な敗死す。**襄**は進みて芍陂（現・安徽省寿県南、中国の古代四大水利事業の一つに数えられ、現存する中国最古の灌漑施設で安豊塘と呼ぶ、BC598～BC591 年建設）に據る。
▲［趙の諸侯が燕に降る］趙の末に，樂陵の**朱禿**、平原の**杜能**、清河の**丁嬈**、陽平の**孫元**は各々兵を擁して城邑に分據す，是に至りて皆な燕に降を請う。燕主の**儁**は**禿**を以て青州刺史と為し，**能**を平原太守と為し，**嬈**を立節將軍と為し，**元**を兗州刺史と為し，各々留まりて其の營を撫せしむ。
前秦秦の丞相の**雄**は池陽に克ち，**孔特**を斬る。十二月，清河王の**法**、**苻飛**は鄠に克ち，**劉珍**、**夏侯顯**を斬る。
姚襄［姚襄は盱眙に進駐し建康に謝罪］**姚襄**は淮を濟り，盱眙に屯し，流民を招掠して，衆は七萬に至り，守宰を分置し，農桑を勸課す。遣使して建康に詣らしめ**殷浩**の罪狀をあげ，並びて自ら陳謝す。
■詔して**謝尚**を以て都督江西、淮南諸軍事、豫州刺史と為し，歷陽に鎮ぜしむ。

前涼［張曜靈を廢して張祚立つ］涼の右長史の**趙長**等は建議し，以て為す、
「時に難は未だ夷らがず，宜しく長君を立てん。**曜靈**は沖幼にして，請う長寧侯の**祚**を立てんと。」
張祚は先ず**重華**之母の**馬氏**の幸を得，**馬氏**は之を許し，乃ち**張曜靈**を廢して涼寧侯と為し，**祚**を立てて大都督、大將軍、涼州牧、涼公と為す。**祚**は既に志を得，恣に淫虐を為し，**重華**の妃の**裴氏**及び**謝艾**を殺す。
▲［慕容霸の登用］燕の衛將軍の**恪**、撫軍將軍の**軍**、左將軍の**彪**等は屢々給事黄門侍郎の**霸**を命世之才有ると薦し，宜しく大任を總すべしと。是の歳，燕主の**儁**は**霸**を以て使持節、安東將軍、北冀州刺史と為し，常山（冀州刺史は信都に陳し、北冀州刺史を常山に置く、直隷省保定道曲陽県の西北、現・石家荘市正定県）に鎮ぜしむ。(6-155p)

孝宗穆皇帝中之上永和十年（甲寅，３５４年）

前涼［張祚は自ら涼王と稱す］春，正月，**張祚**は自ら涼王と稱し，改めて建興四十二年（晉室の年号を長期に使ってきた）を和平元年と為す。妻の**辛氏**を立てて王后と為し，子の**太和**を太子と為し，弟の**天錫**を封じて長寧侯と為し，子の**庭堅**を建康侯と為し，**曜靈**の弟の**玄靚**を涼武侯と為す。百官を置き，天地を郊祀し，天子の禮樂を用いる。尚書の**馬岌**は切諫し，坐して免官さる。郎中の**丁琪**は復た諫めて曰く、
「我は**武公**（張軌）より以來，世々臣節を守り，忠を抱き謙を履む（国を建てて自ら嘔吐して立たない謙譲）こと五十餘年，故に能く一州の大衆を以て，舉世之虜に抗し，師徒は歳々に起つも，民は疲れを告げず。**殿下**は勳德は未だ**先公**より高からず，而して亟かに革命を謀るは，臣は未だ其の可を見ざる也。彼の士民の命を用いる所以，四遠の歸向する所以の者は，吾が能く晉室を奉ずるを以ての故也。今而して自ら尊しとすれば，則ち中外は離心す，安んぞ能く一隅之地を以て，天下之彊敵を拒がん乎！」
祚は大いに怒り，之を闕下に斬る。

■［降將の周成は洛陽占拠］故の魏の降將の**周成**（前の七年に降る）は反し，宛より洛陽を襲う。辛酉（１３日），河南太守の**戴施**は鮪渚（河南省河洛道鞏県、現・鄭州市鞏義市）に奔る。
前秦秦の丞相の**雄**は司竹に克つ。**胡陽赤**は霸城に奔り，**呼延毒**に依る。

【殷浩の失脚と桓溫の北伐】

■［殷浩は連年の敗戦で庶民に落とす、桓溫専権］中軍將軍、揚州刺史の**殷浩**は連年北伐し，師徒は屢々敗れ，糧械は都て盡く。征西將軍の**桓溫**は朝野之怨みに因りて，上疏して**浩**之罪を數め，之を廢するを請う。朝廷は已むを得ず，**浩**を免じて庶人と為し，東陽（郡名、浙江省舊金華府方面）之信安（浙江省金華道衢県、現・衢州市衢江区）に徙す。此より内外の大權は一に**溫**に歸す矣。

■［殷浩は尚書令受託文書の空函を投ず］**浩**は少きとき**溫**と名を齊しくし，而して心は競いて相い下らず，**溫**は常に之を輕んじる。**浩**は既に廢黜せられ，愁怨すると雖も，辭色に形わさず，常に空に書し「咄咄怪事」字を作る。之久しく，**溫**は掾の**郗超**に謂って曰く、
「**浩**は德有り言有り，尚に令僕為るや，以て百揆（百官）に儀刑するに足り，朝廷は用いるに其の才を違える耳。」
將に**浩**を以て尚書令と為さんとし，書を以て之に告ぐ。**浩**は欣然として焉を許し，將に答書せんとし，謬誤有るを慮り，開閉する者十數たび，竟に空函を達す。**溫**は大いに怒り，是に由りて遂に絶え，徙所に卒す。前會稽内史の**王述**を以て揚州刺史と為す。

■［桓溫は秦に向かう］二月，乙丑（４７日?），**桓溫**は步騎四萬を統べて江陵を發す。水軍は襄陽より均口（湖北省襄陽道光化県、現・襄陽市老河口市光化街道、均水が南流して沔水に入る口）に入り，南鄉（河南省汝陽道淅川県の東南、現・南陽市淅川県）に至り，步兵は淅川より武關に趣き，**司馬勳**に命じて子午道を出でしめ以て秦を伐つ。
▲燕の衛將軍の**恪**は魯口を圍み，三月，之を拔く。**呂護**は野王に奔り，弟を遣わして奉表して燕に謝罪し，燕は**護**を以て河内太守と為す。(6-156p)
姚襄▲［姚襄はまた燕に降る］**姚襄**は遣使して燕に降る。
▲燕主の**儁**は**慕容評**を以て鎮南將軍，都督秦、雍、益、梁、江、揚、荊、徐、兗、豫十州諸軍事と為し，權に洛水に鎮ぜしむ。**慕容彊**を以て前鋒都督，督荊、徐二州、緣淮諸軍事と為し，進みて河南（大河の南の意味）に據らしむ。

■前秦［桓溫は灞上まで進軍］**桓溫**は將（続は別将に作る）に上洛を攻めんとし，秦の荊州刺史の**郭敬**を獲る。進みて青泥（陝西省關中道藍田県の南、現・西安市藍田県）を擊ち，之を破る。**司馬勳**は秦の西鄙を掠め，涼の秦州刺史の**王擢**（元趙将で張氏につく）は陳倉を攻めて以て**溫**に應ず。秦主の**健**は太子の**萇**、丞相の**雄**、淮南王の**生**、平昌王の**菁**、北平王の**碩**を遣わして衆五萬を帥いて嶢柳（陝西省關中道藍田県の南、現・西安市藍田県）に軍し以て**溫**を拒ましむ。夏，四月，已亥（２２日），**溫**は秦兵と藍田に戰う。秦の淮南王の**生**は單騎にして陳を突き，出入すること十を以て數え，晉の將士を殺傷すること甚だ衆し。**溫**は衆を督して力戰し，秦兵は大いに敗る。將軍の**桓沖**は又た秦の丞相の**雄**を白鹿原(灞上、陝西省關中道長安県の東、現・西安市灞上)に敗る。**沖**は，**溫**之弟也。**溫**は轉戰し而して前み，壬寅（２５日），進みて灞上に至る。秦の太子の**萇**等は退きて城南に屯し，秦主の**健**は老弱六千と長安の小城を固守し，悉く精兵三萬を發して，大司馬の**雷弱兒**等を遣わして**萇**と兵を合わせて以て**溫**を拒ましむ。三輔の郡縣は皆な來降し，**溫**は居民を撫諭し，安堵して復業せ使む。民は爭いて牛酒を持ちて迎え勞わり，男女は路を夾んで之を觀て，耆老は泣を垂れる者有り，曰く、

「圖ずも今日復た官軍を睹(み)んとは！」
前秦秦の丞相の**雄**は騎七千を帥いて**司馬勳**を子午谷に襲い，之を破り，**勳**は退きて女媧堡に屯す。

▲［**雋は一族を王に封じる、垂の命名の所以**］戊申（３１日?），燕主の**雋**は撫軍將軍の**軍**を封じて襄陽王と為し，左將軍の**彭**を武昌王と為す。衛將軍の**恪**を以て大司馬、侍中、大都督、錄尚書事と為し，太原王に封じる。鎮南將軍の**評**を司徒、驃騎將軍と為し，上庸王に封じる。安東將軍の**霸**を封じて吳王と為し，左賢王の**友**を范陽王と為し，散騎常侍の**厲**を下邳王と為し，散騎常侍の**宜**を廬江王と為し，寧北將軍の**度**を樂浪王と為す。又た弟の**桓**を封じて宜都王と為し，**逮**を臨賀王と為し，**徽**を河間王と為し，**龍**を歷陽王と為し，**納**を北海王と為し，**秀**を蘭陵王と為し，**岳**を安豐王と為し，**德**を梁公と為し，**默**を始安公と為し，**僂**を南康公と為す。子の**咸**を樂安王と為し，**亮**を勃海王と為し，**溫**を帶方王と為し，**涉**を漁陽王と為し，**暐**を中山王と為す。尚書令の**陽騖**を以て司空と為し，仍(な)を尚書令を守らしむ。冀州刺史の吳王の**霸**に命じて徙りて信都に治せしむ。初め，燕王の**皝**は**霸**之才を奇として，故に之を名づけて**霸**と曰い，將に以て世子と為さんとす，群臣は諫め而して止む，然るも寵遇は猶ほ世子を逾える。是に由りて**雋**は之を惡み，其の嘗て馬より墜ちて齒を折るを以て，更に名づけて**缺**と曰う。尋いで其の讖文に應じるを以て，更に名づけて**垂**と曰う。侍中に遷り，留臺の事を錄し，徙りて龍城に鎮す。**垂**は大いに東北之和を得て，**雋**は愈々之を惡み，復た召し還す。(6-157p)

■姚襄五月，江西の流民の**郭敞**等千餘人は陳留（晉南渡の後、陳留郡は譙郡長垣県界にあり）内史の**劉仕**を執り，**姚襄**に降る。建康は震駭し，吏部尚書の**周閔**を以て中軍將軍と為し，中堂に屯ぜしめ，豫州刺史の**謝尚**は歷陽より還りて京師を衛り，江に因りて備守す。
前涼**王擢**は陳倉を拔き，秦の扶風内史の**毛難**を殺す。

【桓温は王猛に見限られ撤退】

■［**王猛は桓溫に旁若無人**］北海の**王猛**は，少くして學を好み，倜儻（才気人に優れる）にして大志有り，細務を屑(いさぎよ)しとせず，人は皆な之を輕んじる。**猛**は悠然として自得し，華陰（陝西省關中道華陰県、現・渭南市華陰市）に隱居す。**桓溫**が關に入るを聞き，褐（濃い藍色の衣、菟の毛の織物）を披(き)て之に詣り，虱(しらみ)を捫(ひね)り而して當世之務めを談じ，旁若無人なり。**溫**は之を異として，問いて曰く、
「吾は**天子**之命を奉じ，鋭兵十萬を將いて百姓の為に殘賊を除く，而して三秦の豪傑は未だ至る者有らざるは，何ぞ也？」
猛は曰く、
「公は數千里を遠しとせずして，深く敵境に入る。今長安は咫尺(しせき)なるに，而して灞水を渡らず，百姓は未だ公の心を知らず，至らざる所以なり。」
溫は嘿然（国都に迫りて内変を待つ心境だったろうと胡三省は憶測する）として以て應える無く，徐(おもむ)ろに曰く、
「江東には卿の比は無き也！」
乃ち**猛**を軍謀祭酒に署す。
■［**桓溫の軍は食乏し**］**溫**は秦の丞相の**雄**等と白鹿原に戰い，**溫**の兵に利あらず，死者は萬餘人。初め，**溫**は秦の麥を指して以て糧と為さんとし，既に而して秦人は悉く麥を芟り，野を清めて以て之を待ち，**溫**の軍は食に乏し。(2021-1207)

■［桓溫帰還、王猛は同行辞退］六月，丁丑（１日），關中の三千餘戸を徙し而して歸る。**王猛**を以て高官督護と為し，與に俱に還らんと欲し，**猛**は辭して就かず。

■［前秦軍の追擊で損耗］**呼延毒**は衆一萬を帥いて**溫**に從いて還る。秦の太子の**萇**等は**溫**に隨いて之を擊ち，潼關に至る比おい，**溫**軍は屢々敗れ，失亡するは萬を以て數える。

■［桓溫は抜け駆けした薛珍を誅殺］**溫**之灞上に屯する也，順陽太守の**薛珍**は**溫**に徑(ただ)ちに進んで長安に逼るを勸め，**溫**は從わず。**珍**は偏師を以て獨り濟り，頗る獲る所有り。**溫**の退くに及び，乃ち還り，衆に顯言して，自ら其の勇を矜り而して**溫**之持重を咎める。**溫**は之を殺す。

前秦［苻雄は司馬勳・王擢を陳倉に擊つ］秦の丞相の**雄**は**司馬勳**、**王擢**を陳倉に擊ち，**勳**は漢中に奔り，**擢**は略陽に奔る。

前秦秦は光祿大夫の**趙俱**を以て洛陽刺史と為し，宜陽に鎮ぜしむ。

前秦［苻雄の死に苻健は哭す、苻堅の才能］秦の東海敬武王の**雄**は**喬秉**を雍に攻める。丙申（２０日），卒す。秦主の**健**は之を哭して嘔血し，曰く、

「天は吾が四海を平らげるを欲せず邪？何ぞ吾が**元才**（苻雄の字）を奪う之速やかなる也！」

魏王を贈り，葬禮は晉の**安平獻王**の故事に依る。**雄**は佐命の元勳を以て，位は將相を兼ね，權は人主に侔(ひと)しく，而して謙恭にして泛(ひろ)く愛し，法度を遵奉す，故に**健**は之を重んじ，常に曰く、

「**元才**は，吾之周公也。」(6-158p)

子の**堅**は（東海王の）爵を襲う。**堅**は性は至孝にして，幼きより志度有り，博學にして多能，英豪，**呂婆樓**、**強汪**及び略陽の**梁平老**に交結し皆な之と善し。

▲［朱禿は慕容鉤を殺害］燕の樂陵太守の**慕容鉤**は，**翰**（慕容翰は高句麗を破り宇文を滅ぼすの功有り）之子也，青州刺史の**朱禿**と共に厭次に治す。**鉤**は自ら宗室を恃み，毎に**禿**を陵侮し，**禿**は忿りに勝たず。秋，七月，**鉤**を襲い，之を殺し，南に**段龕**に奔る。

前秦［秦は關中平定の論功行賞］秦の太子の**萇**は**喬秉**を雍に攻める。八月，之を斬り，關中は悉く平らぐ。秦主の**健**は**桓溫**を拒ぐ之功を賞し，**雷弱兒**を以て丞相と為し，**毛貴**を太傅と為し，**魚遵**を太尉と為し，淮南王の**生**を中軍大將軍と為し，平昌王の**菁**を司空と為す。**健**は政事に勤め，數々公卿を延(ひ)いて治道を咨講し，趙人の苛虐奢侈之後を承け，易えて寛簡節儉を以て，儒を崇め士に禮し，是に由りて秦人は之を悅ぶ。

▲燕は大いに兵衆を調（徵発）し，詔を發する之日に因りて，號して、

「丙戌の舉。」

と曰う。

■九月，**桓溫**は秦を伐つより還り，**帝**は侍中、黄門を遣わして**溫**を襄陽に勞わる。

■或は

「燕の黄門侍郎の**宋斌**等は**冉智**を奉じて主と為して而して反を謀る」

と告げ，皆な伏して誅す。**斌**は，**燭**（宋燭は 96 巻成帝咸康四年にあり）之子也。

前秦［秦の太子苻萇は流れ矢で卒す］秦の太子の**萇**之**桓溫**を拒ぐ也，流矢の中たる所と為り，冬，十月，卒す，謚して**獻哀**と曰う。

▲燕王の**儁**は龍城に如く。

前涼［疑心暗鬼の張祚は王擢を攻め、王擢は前秦に降る］桓溫之關に入る也，王擢は遣使して涼王の祚に告げ，言わく、

「溫は善く兵を用い，其の志は測り難し。」

祚は懼れ，且つ擢之己に叛するを畏れ，人を遣わして之を刺さしめんとす。事は洩れ，祚は益々懼れ，大いに兵を發して，

「東伐す」

と聲言し，實は西して敦煌を保たんと欲し，會々溫は還りて而して止まる。既に而して秦州刺史の牛霸等を遣わして兵三千を帥いて擢を擊たしめ，之を破る。十一月，擢は衆を帥いて秦に降り，秦は擢を以て尚書と為し，上將軍の啖鐵を以て秦州刺史と為す。

前秦■秦王の健の叔父の武都王の安は晉より還り，姚襄の虜する所と為り，以て洛州刺史と為す。

前秦十二月，安は亡げて秦に歸り，健は安を以て大司馬、驃騎大將軍、并州刺史と為し，蒲板に鎮ぜしむ。

前秦是の歳，秦は大いに饑え，米一升は布一匹に直す。

令和 3 年 2 月 20 日	翻訳開始	11822 文字
令和 3 年 3 月 1 日	翻訳終了	23560 文字、現代地名年表対応
令和 3 年 12 月 8 日	書下し終了	24126 文字